

京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス散策マップ

エリア3



正門に面した空間で、本学の「顔」とも言える景観を作る場所。広場は比叡山に向かって開かれている。

- ⑦ **大学センターホール(写真左)**
このホールでは卒業式などの全体の式典が行われる。また、学生の各種手続きなどを受け付ける場所も、この建物の中にある。
- ⑧ **美術工芸資料館(写真中)**
デザイン教育の教材に当てることを目的に収集された諸資料を調査研究するとともに、展示も行われている。
- ⑨ **フラザKIT**
本学生のコンペ案を元に既設建物をリニューアル。南側部分は登録有形文化財である。(H20.3.7)

エリア4

本学の歴史を感じるムーン。大学の礎を築いた人物の銅像が建物内や外部に見られる。平成27年8月より、大学運営の中心となる本部機能を配置



- ⑩ **3号館本部棟、合同講義室**
昭和5年建設
設計：本野精吾(元本学教授)
端正に仕上げられ装飾を排除。スクラッチタイルの質感を生かしたシンプルな建築である。
登録有形文化財として
平成20年3月7日付けで登録(登録番号 第26-0269号)



- ⑪ **東門及び旧門衛所**
旧京都高等工芸学校当時の正門及び門衛所。
登録有形文化財として
平成20年3月7日付けで登録(登録番号 第26-0272号)



- ⑫ **倉庫**
旧京都高等工芸学校当時の倉庫。
登録有形文化財として
平成20年3月7日付けで登録。(登録番号 第26-0270号)



エリア5



学生が最も集まる場所。各種の学内イベントが行われ、食事をする場が設けられ、憩いの場でもある。

学生食堂は、「創立60周年記念事業」として売店機能を備えた学生食堂として改築された。

- ⑬ **大会館(写真左)**
ホールや研修室などが設けられ、各種イベント等に使用されている。
- ⑭ **ウッドデッキ(写真中央)**
天気の良い日には外へ出てピクニック気分のランチも楽しめる。学生食堂の建設とともに整備された。
- ⑮ **KIT HOUSE(写真右)**
1階にはカフェテリア形式の食堂
2階にはミニコープというコンビニ感覚の店舗やブックセンターを持ち、KIT HOUSEと命名され、学生の憩いのスペースとなった。

京都工芸繊維大学の理念

京都工芸繊維大学は、遠く京都高等工芸学校及び京都蚕業講習所に端を発し、時代の進展とともに百有余年にわたり発展を遂げてきた。本学は、伝統文化の源である古都の風土の中で、知と美と技を探究する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきた。本学は、自主自律の大学運営により国立大学法人として社会の負託に応えるべく、ここに理念を宣言する。

●基本姿勢

京都工芸繊維大学は、未来を切り拓くために以下の指針を掲げ、教育研究の成果を世界に向けて発信する学問の府となることを使命とする。

- ・人類の存在が他の生命体とそれらを取りまく環境によって支えられていることを深く認識し、人間と自然の調和を目指す。
- ・人間の感性と知性が響き合うことこそが、新たな活動への礎となることを深く認識し、知と美の融合を目指す。
- ・社会に福祉と安寧をもたらす技術の必要性を深く認識し、豊かな人間性と高い倫理性に基づく技術の創造を目指す。

●研究

京都工芸繊維大学は、建学以来培われてきた科学と芸術の融合を目指す学風を発展させ、研究者の自由な発想に基づき、深い感動を呼び美の探求と卓越した知の構築によって、人類・社会の未来を切り拓く学術と技芸を創成する。

●教育

京都工芸繊維大学は、千年の歴史をもつ京都の文化を深く敬愛するとともに、変貌する世界の現状を鋭く洞察し、環境と調和する科学技術に習熟した国際性豊かな人材を育成する。
そのため、自らの感動を普遍的な知の力に変換できる構想力と表現力を涵養する。

●社会貢献

京都工芸繊維大学は、優れた人的資源と知的資源とを十分に活かし、地域における文化の継承と未来の産業の発展に貢献するとともに、その成果を広く世界に問いかけ、国際社会における学術文化の交流に貢献する。

●運営

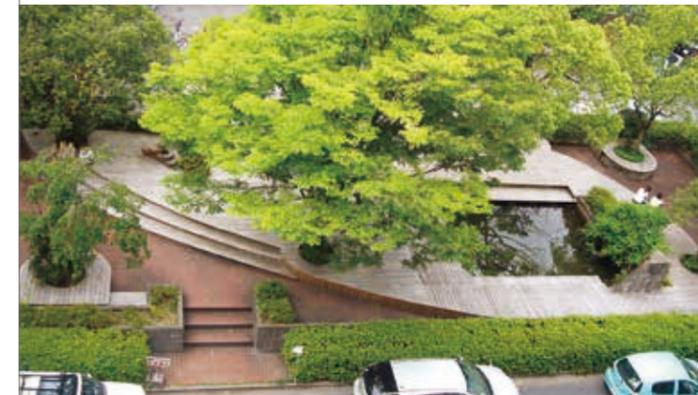
京都工芸繊維大学は、資源の適正で有効な配置を心がけ、高い透明性を保ちつつ、機動的な判断と柔軟かつ大胆な行動をもって使命を達成する。

エリア1



図書館と、旧本部棟等が並び静かなムーン。図書館は夜まで開館している。

- ① **旧本部棟(写真左)**
平成27年8月に本部機能は3号館に移転した。
(整備待ち状態)
- ② **図書館(写真右)**
本学附属図書館は、昭和24年5月の新制大学としての大学創立時に前身校である「京都工業専門学校」と「京都繊維専門学校」の蔵書を引継いで、京都工芸繊維大学附属図書館工芸分館及び繊維分館として発足した。



- ③ **ウッドデッキ**
造形工学課程の学生のデザイン・制作によるもので、休憩、野外授業、各種イベントなどに利用されている。

エリア2



このエリアでは、夕刻になり講義が一段落したころになると、学生がサークル活動や部活動に興じようと集まってくる。

- ④ **文化サークル共同利用施設(写真左)**
10種類以上のサークルがひしめきあい、溢れんばかりの若さを発散させている。大学祭のときにはとりわけ賑やかだ。
- ⑤ **体育館(写真中央)**
体育館はサークル・部活動に利用される他、身体測定や体育講義に利用される。
- ⑥ **武道場(写真右)**
合気道・剣道・柔道などの部活動が利用している。周辺には気合いの音が響きわたっている。

京都市営地下鉄
松ヶ崎駅へ至る

北山通り (Kitayama St)



60周年記念事業(KIT HOUSE)

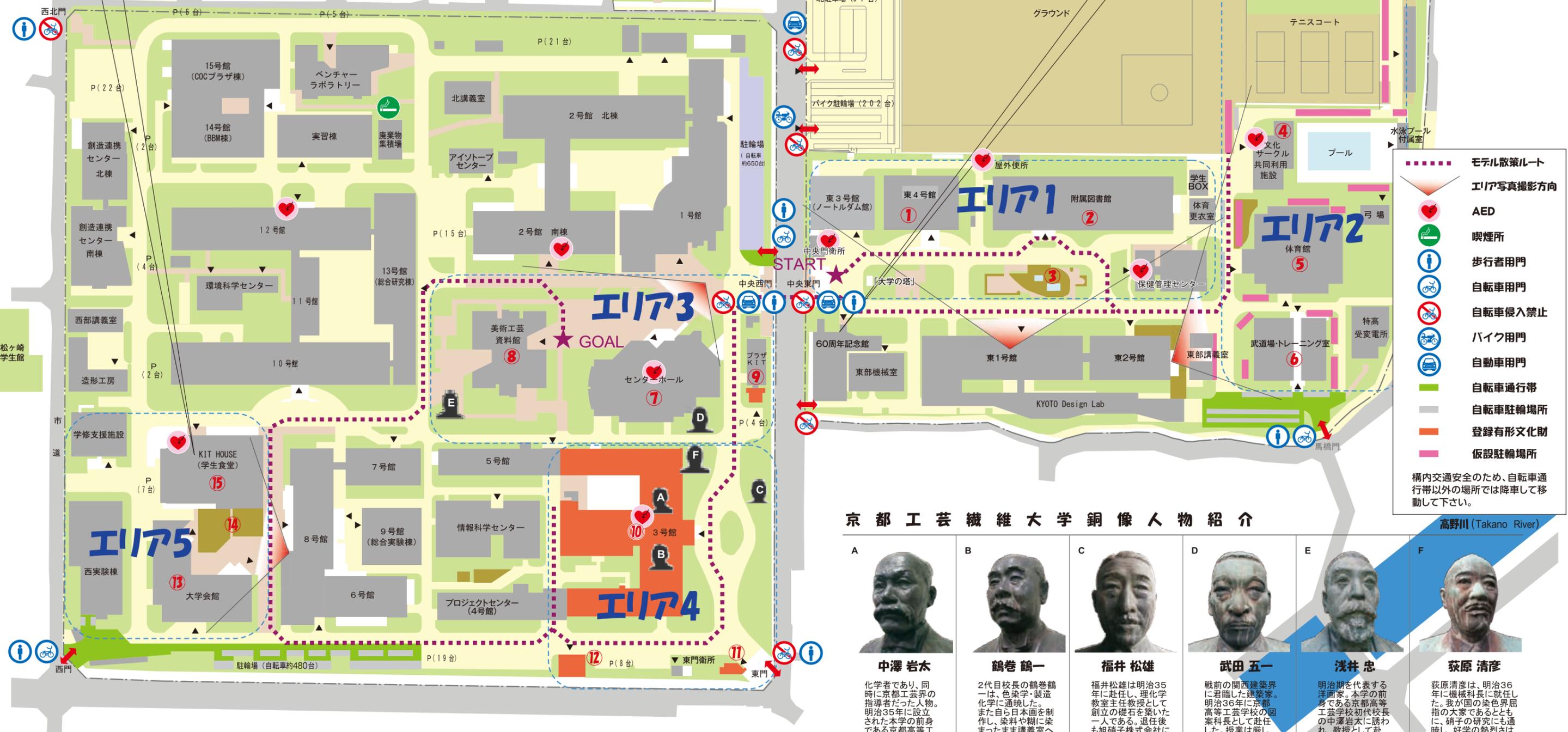


60周年記念事業(同窓会パビリオン)

KIT倶楽部
ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計(昭和3年築)。
京都大学の舟岡教授の私邸(離れ)であったが昭和50年に
本学に譲渡された。
その後、外国人教師宿舎として使用された後、平成19年に
KIT倶楽部としてリニューアルされた。
登録有形文化財として平成20年10月23日付けで登録
(登録番号 第26-0322号)



60周年記念事業(60周年記念館)



- モテル散策ルート
 - ▼ エリア写真撮影方向
 - ♥ AED
 - 🚬 喫煙所
 - ♿ 歩行者用門
 - 🚲 自転車用門
 - 🚫 自転車侵入禁止
 - 🚲 バイク用門
 - 🚗 自動車用門
 - 🟢 自転車通行帯
 - 🚗 自転車駐輪場所
 - 📌 登録有形文化財
 - 🚗 仮設駐輪場所
- 構内交通安全のため、自転車通行帯以外の場所では降車して移動して下さい。

京都工芸繊維大学銅像人物紹介

<p>A 中澤 岩太 化学者であり、同時に京都工芸界の指導者だった人物。明治35年に設立された本学の前身である京都高等工芸学校の初代校長を務めた。</p>	<p>B 鶴巻 鶴一 2代目校長の鶴巻鶴一は、色染学・製造化学に通曉した。また自ら日本画を制作し、染料や糊に染まったまま講義室へ赴くこともしばしばあった人物だった。</p>	<p>C 福井 松雄 福井松雄は明治35年に赴任し、理化学教室主任教授として創立の礎石を築いた一人である。退任後も旭硝子株式会社に勤めるかたわら名誉講師として教壇にたった。</p>	<p>D 武田 五一 戦前の関西建築界に君臨した建築家。明治36年に京都高等工芸学校初代校長の案料長として赴任した。授業は厳しく、言葉をかけられた学生は羨望の的となったという。</p>	<p>E 浅井 忠 明治期を代表する洋画家。本学の前身である京都高等工芸学校初代校長の中澤岩太に誘われ、教授として赴任。京都洋画壇にアカデミズムを根付かせた。</p>	<p>F 荻原 清彦 荻原清彦は、明治36年に機械科長に就任した。我が国の染色界屈指の大家であるとともに、硝子の研究にも通曉し、好学の熱心な学生に尊敬の的であった。</p>
--	---	---	---	--	---

高野川 (Takano River)